大正十二年十月二十七日印刷納本　大正十二年十月三十一日發行

光

第二十七輯

大正十二年十月

○ざんげといのり……天香
○轉禍爲福の三重原……西田天香
○災餘雜感……中桐確太郎
○虫のいゝ社會……藤井悌
○社會事業團體大しん災對策私案……松下吉衛
○猛火の洗禮……松下生

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる淨財

○青山外苑バラックより……K M
○大正しん災の歌……福原俊丸
○地上のなやみ……八田まさる
○句興二題……侶乘
○陽はしずむ……すゞき五ろう
○子供の家から……まつした

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹告

いよ〳〵このたび、縁がじゆくしましたから

一『おひかり』のみまへにひれふして

二『光明祈願』をまとうさして

三『光の友の會』をつくり

四『三重大願』(震災に因む轉禍爲福の)をたてて

五　深い祈りを廣く强めたいとおもひます。

くはしいことは次號に書かせてもらひます、どうかしんけんに、おいのりぞへ下さい。

○

一燈園生活二十年紀念光友大會

一燈園生活發祥より滿二十ヶ年になり、多くの光友が互に親密を増し一段の緊張を要するときとなりました。光友諸君の御希望で、およそ十一月十、七、八日、頃に京都市に於て右の會合を催したいと思ひます。何れ順序及必要なことは次號又は可然方法でおしらせしますから御賛成下さい。

大正十二年十月　西田天香

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ざんげといのり

(於天華香洞京都御所砂利道上)

天香

○

「おひかり」のまへに、ひれふして

つつしみておわびをさせてもらひます。いかにもゆきとどかぬ、つみだらけの、わたくしめを、すててくださらずに、きわめてたいせつな、ごほうこうを、二十年にみちるまで、よくもおさせくださいました。もつたいないことでした。わたくしはよくしつています、こんなたいにんにあたりうるものでないことを。けれども、どうしたおぼしめしか、けふまでおすてくださらなんだ。

「不二の道」はやういでありませぬ。ひつこめばしかられ、でるとたたかれます。はたらきとしんじんを一つにし、しんたいとぞくたいとをはなさずに、そうしてそのうへせかいのこんぽんかいぞうを、すこしもあらそうことなくして、じつげんせなければならぬとする。これほどのだいしめいは、わくたしなどの、たへうるところでありませぬ。けれども、たれかゞひらいてゆかねばならぬことを、わたしはいのちがけでしんじます。たらぬわたしであつても、これをいのちがけでしんじ、ゆがみなりにも、ひきづられてゆかうとしますのを、あなたは、めぐんでおつかひくださつたのでせう。もつたいないことです。またありがたいことであります。

ながいとしつきには、いろ〳〵のたちばへたたせてもらひました。ものもたずに、おひかりのみちをあゆむみち。ものをあづかつておひかりをうけてゆくみち。ひとりゆくみち。せわをするみち。この四とうりのみち

を、だいぶんはつきりさせてもらひました。またそこに、それ〳〵とうといおつれを、たくさんにめぐまれました。「おひかり」とつれのかた〴〵のしんけんなおいのりぞへで、かなりにねぶかく「おひかり」のたねがおろされました。よのひとのまだみへぬところに、つきぬいのちがうへつかりました。ぐわいこくのひと—にほんこくみんはたたかひをこのめるこくみんときめこんでいる—にこの「おひかり」のせいかつが、あることによつて、にほんがへいわのくにでありうる、またにほんこくみんが、へいわをていしよふすることのできる、こくみんであると、おもわせかけました。かすかでもかかるじゞつの、あがつたことなどは、いつかはしれる、かくれたおゝきな、とうとひしごとであります。これらはみな、「おひかり」のおちからであります。

かやふにおもふにつきまして、一しほわたしみづからのおわびとざんげをせねばならぬのであります。わたくしはいかにも、みにくいものです、とくもたらず、ちからもたらず、ことにだいぶんとしをかさねました。二十ねんのあいだに、四とうりのくらしを、こころみさせてもらふあいだに、づいぶんとむりもできました。「やむをえぬ」とおもうてあゆんだことのなかには、わたしのまじめと、とくがたらないで、ひとさまをきづつけたこともおほかつたのです。それは「おひかり」はよくごぞんじです。わたくしはそれをことごとくあやまつて、もとのあゆみにちうしんをおかせてもらふときがきましたのです。どうぞおゆるしください。そうしてわるかつたことにつゐて、どれだけでもむちあててください。わたしをむちうつてくださることがつよいほど、わたしにこころみさせてもらひました四とうりのたちかたは、あざやかになります。わたしなどより、もつとはつきりみちをひらかせてもらふひとが、きつとでてまゐります。わたしはほんのくさをふんではしらせてもらふたくらいで、これまでの一くりとさせてください。すまぬことだらけでありますが、おゆるしくださらば、わたしはくわぶんなこうゑいです。

ただこのおわびとざんげを、ことばだけでなくて、わたしのこころと、からだと、せいかつのうへに、も

つとふかく、ぐたいかさせてくださるやうに、どうぞわたしに「おひかり」のおちからをくわへてくださいませ。

ながい二十ねんのあいだの、こまかいおてまわしとおじひをかんしやします。どうぞ。これからのあゆみにもさらにおみちびきをおしみたまわぬやうに。

○

「おひかり」のまへに、ふたゝび、ひれふして、

天香

つゝしみて　おねがひがあります。どうぞ、このたびの、だいしんさいについてたてました、「わざわひをさひわひとする三つのだいぐわん」をおまもりください。

あまりにおほきな、だいぐわんでありますが、ひととして、こくみんとして、またじんるいとして、どうわてをたてねばならんぐわんであります。このきかひにたてねば、わがくにはあぶなく、また、せかいのへいしも、つくりだすふかいいのりをするには、もつともよいきかいであるからです。

こんどほどの、おほきなさいなんは、わがくにのまへのれきしにみないそうです。わたくしはこれはわがくにに、れきしをこへるほどの、おほきな、いざある、とうとひことをさせやうとの、おんためしとしんじます。

わたくしだちは、ひととして、あまりにけつてんがおほい。こくみんとしても、またじんるいとしてもです。それをふかくはつきりとしりました。かうしてふかく、ざんげをして、このわざわひをうらかへして、おほきなさいわひと、したいのであります。

こせこせと、かしこぶつてゐましても、さかさまにみづがながせませぬ。しせんをせいふくするなどと口ひろいことをもうしたことも、こんどはきがついたやうであります。すこしばかし、だいぢがゆりましたので、いかにみんながうろたへましたか。ちゑをたのみ、ざいもつをたのみ、ひとをたのみあひしていたこと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の、あさはかさをしりました。とかいをよいものゝやうにして、しぜんのうそんを、すてゝきたおろかさも、みにしみました。あらそひあひ、うらみあひする、こゝろとせいかつが、いやがうへに、わざわひをおほきくしまして、みにくいあとをのこしたことの、いかにもなさけないことを、みせつけられました。

はたして、てんさいのみでしようか？わたしは、しんげんちに、かなりちかいところの、きしやのうちでゆられました。あるのうそんのなかでしたが、ふじのやまは、いかにもはれ〴〵かゞやいていましたので、しぜんをのろうきもちがおこらなくなりました。もしもわたしらが、「しぬことをしぜんにかいる」ことさへおもへますならば、なんのさいなんがありませう。すべてのざいもつを、あづかりものとして、あつかつていましたら、なんのそんがいがありましよふ。あいしあへる、こゝろもちであるならば、なんの「るげんひご」をうみ、また「じよふきをいつする」ことがありませう。わたしだちが、ほんとにおちついていないために、てんさいとするのであるまいか。ごうまんなこゝろもちで、しぜんをのろうたりすることや、ほんとにおちついていなかつたことなどを、しらせてもらうたのだと、かんじるのが、ほんとうとしんじます。ひれふして、てんのおしかりとここらふべきであるとおもひます。

どうぞ、わたしたちが、しようじきに、すなをに、けんそんに、このたびのことをてんのおんいましめとうけまして、こころと、からだと、せいかつとを、たゞしくもたせてくださいませ。このわざわひをてんじて、おほきなさいわいとさせてくださいませ。そうして、たてました三つのぐわんをおまもりください。けんめいにおねがひいたします。

どうぞ。四とうりの、ざんげのせいかつを、とふしまして、

一、こじんとしましては、しなぬいのちをえますやうに。

二、こくみんとしましては、こわれぬところにざいもつをたくわへ、たのしく、ぐわしんしようたんして、

ちじよふにも、こんごのそんがいにますたからをあましゑるやうに。

三、じんるいとしましては、こんぽんよりうらみあわぬせいかつをなし、てつていしてあいしきれるこころをもち、ひろげてせかいにささげ、たてにも、よこにも、あらそひあわずに、りそうのせかいのじつげんにちかづきますやうに。

わたくしは、たゞ、くちでだけおいのりしてはなりませぬ、このこころとからだのもちかたと、せいかつのざんげの、じつこうによつておいのりいたします。どうぞ、おまもりください。たらぬところをびし〳〵とうつてください。そうして、よきおつれをたくさんめぐんでください。こんごのことは、ひとりでもおほいほど、ちからになります、わたくしはせんとうになるちからがありませぬ。たくさんないがいの、いろいろのひと〴〵が、そうだちになつて、このいのりをつよめてくださるやうに、どうぞおまもりくださいませ。わたしはひれふして、すべてのかたのしたをあゆみ、おがませてもらひたいとおもひます。どうぞ、おまもりくださいませ。

○罹災勞働者殘留見込數（警視廳調による）

勞働者總數	二三〇、〇〇〇人
り災者數 勞働者數の三分一と見込む	八〇、〇〇〇
此内退京者數 り災者の約三分一と見込む	二七、〇〇〇
差引殘留り災者數	五三、〇〇〇

⊙託兒所に關する調

勞働者總數	二三〇、〇〇〇人
内家族を有する勞働者數	八〇、〇〇〇
此内り災退京者數の三分一と見込む	二七、〇〇〇
差引り災勞働者數の三分一と見込む	五三、〇〇〇
殘留有家族勞働者數	二七、〇〇〇
幼兒數 二家族に付約一人	
委託を要する勞働者家庭の幼兒數	三、四〇〇
幼兒數の約五分一	

○婦人保護（警視廳調）

罹災藝妓數	四、二五〇人
同娼妓數（主として吉原洲崎）	五、〇〇〇
外一、〇〇〇は燒死	

備考 り災娼妓は大部分樓主に伴はれて品川四谷板橋千住新宿於面に避難せり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

此度の大震災にちなみて

『轉禍爲福』の三重願をたて
『光の友の會』を作るに至るまで

園の同人、光の友、諸兄姉、及び有緣無緣の方々に「おひかり」の名によつてする私のおわびと願ひ

西田天香

まづ、園の同人、光の友の諸兄姉に一言おわびをさせてもらいます。

それは、すぐる二十年のあいだ、わたくしのやうなものをおたすけ下さつて、過分の同情と共禱をよせられ、園の當番として、または宣光社の當番として、少なからぬげがれ、不德、無理などの出來たのをば咎めないで、ゆがみなりにもつとめさせて下さつたことは、勿體ないことであります。

私は本年五十二歲になりました。省みますとゾーッとするほど色々な試煉に出遇ひまして、みにくゐあとをのこしてきましたが、どうにかこうにかここまでよせつけてもらひました。私は時には不思議の樣におもはれます。よくも私のやうなものが、ともおもふたり、また「おひかり」なればこそと、おもふたりいたします。そうして今年は、春よりたのしんで、此秋一度、滿二十年目の足洗ひをしたいと念願していたのでありました。

勿論足洗ひとは、これで此生活をやめるといふ意味ではありませぬ。かなりに復雜になつて、自分も氣がとがめ、人樣にも心配させていた事を、おわびをして、一度もとの單純を中心にする、体度に歸りたいので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

あります。

二十年といへば、二たむかしであります。ことに人生の元氣の最汪盛な、また思案ざかりの時であります。この二十年を一幕として、一度もとの單純にかいらせてもらふことは、私にとり一度死ぬほどのきもちであります。

愛染堂の緣側にすわつて、嬰兒の乳をよぶなき聲をきいたときから、此生活の一體二相（一體とは天華香洞、二相とは一燈園と宣光社）とあらわれ。四種の用（四種の用とは、懺悔の生活の四通りのやりかたで一は個人の托鉢、二は托鉢の世話、三は個人の宣光社、四は宣光社の世話とで、これは別にだん／＼にかかせてもらひます）となり「懺悔の生活」の編述となり、世間の問題とされて、眞摯なる同人の共鳴や、入園が激増し、講演托鉢などともなり、樣々の是非善惡の批評の海を、なるがまゝに光風に任せてきて、玆に此生活が滿二十歲となつたまで、思へば隔世の感があります。殊に地下水のやうに、下坐のみをなして、自からすゝみて宣傳しない生活であるにも拘らず。最近、朝河貫一君より（中桐兄の親友にして現在米國エール大學に教鞭をとらる）おくられし、ニューヨークタイムス紙に掲載されたる、ハーデング氏の論文（一燈園生活に非常に興味を曳いて長文に及びたるうち余の驚きしは、氏が、亞米利加及諸國が、日本は好戰國民なりときめこんでいるそのうちより、一燈園の加き平和な生活があらはれて、それが外國のまねでもなく從來の成形佛敎でもなく、おもひきつた下僕の生活のうちより、光りをはなち、獨りの天香のみならず澤山な光友のあるといふことは、必ずしも日本は好戰國民でない事を證據だて得るといふやうなことが書いてあることである）や、同じ生活者が外國にもあらはれて、交歡を求めきし手紙など見るとき、此の生活がよもや國內にもかくれていないで、しかもその影響する處が國家的大問題にもふれてゐると思ふときは、意外に重大な使命を負ふていることを感じます。

參考書があるではなし、全く一すじの下坐の托鉢。又私に學歷があるではなし、只一貫した懺悔の奉仕が、

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ありがたい事には、そのなかからじわ〳〵と光の乳が出てくる。のめども盡きず、くめどもかわかず。いかなる難解の問題にあふとも、此純なる醍醐味のうちには解決の光素が含まれている。どんな復雜な問題に引ずり込まれても、いつも泥は手につかず。事愈錯雜して光益鮮かに、理如何に混濁しても光りのまへにはばら〳〵に溶解さる。無相無縛なるにあらずば、ごふしてこうあり得ましよふ。かくて愈「おひかり」は人の作爲のものにあらずして天然のものであります。

かへす〴〵もはづかしきは天香そのもの、まばゆき光をあびながら、己れのもののやうにも人に思はるる事のありしもつたいなさ、なまなかに人に知られざる時こそ心やすけれ。しられてのあとは、そこへいつのまにか、己れのみにくき潜上の姿も加はりて、まことに我はいたましき心を持越し來たのであります。

それで、此秋は、すつかりとおわびをし、「おひかり」を愈あざやかに、我をばもとの下坐において、園の同人及光友諸君に、「おひかり」のみちをあゆみやすからしむるやうにと、たのしみ準備をしてきました。

處が此度の關東の大地震、大火災さへ加つて、御承知の様な、我國未曾有の大慘事が起りました。

私は、前生涯に於ける事業の一たりし、北海道の開墾地の滿三十年祭によばれたのと、札幌の親い有志の方からの招きにより、丁度前日靜岡縣一圓の同人の集りをすませて、靜岡九時何分か發の廿六號列車で、法喜と長男同人一行十三人連で東上の途中、御殿場に入らんとする一里手前の、或信號所近くで遭難しました。

八時間の立往生に、炊出しまでいたゞいて、ぼつ〳〵沼津迄後送され、その夜十二時靜岡迄かへらせてもらひましたが。頻々として飛びくる號外及各所の掲示で、關東の慘事を聞き、大部分は名古屋で京都へ連かへつてもらひ、私は法喜と二人で、又引返して沼津、御殿場、小山と次第々々に震源地近くの慘害の狀を見舞はしてもらうた。是は私には色々の內的衝動がありまして、いわば二十年の幕切れと、新たに深めて往くべき禱りの生活に、火の洗禮をうける心地であり、紅蓮の前につつたてる不動尊をおがんでゆく頭の上へ、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

血をかけてもらいたい樣な氣持がしたのでありした。

時がきた！人が、國民が、人類全體が、ほんとうに懺悔すべき時がきた！と、私はたゞかく直覺したのです。永い間欝陶敷かつた、往きつまつていた、ごうかこれを機會に一れつに眼をさましたい。號外また號外、京濱の全滅戒嚴令發布など、それからそれへと地獄相の樣子を聞きます。「寢食爲めに安からず云々」との　御勅語あり、甞膽的復興の首相の告諭あり、芝生の上の親任式、攝政宮殿下までが玄米の握飯をおとりになつたなごと拜承しては、まさに擧國懸命の深禱を要する時が來たとおもうたのであります。

では私はどうしたらよいか？　よし、手近な自分の欠點をば極度に反省しやう、往かねばならぬ處へなら懸命に往かう、おわびすべきはさつさとし、禱るべきは眞劍に祈らふ、と決心したのであります。そこでもう一度ていねいにおわびをさせて下ださい。

同人及び光友の方々。私のゆきとゞかなかつたことを許して下さい。はる〱遠い處をきて下さつたのに、みじかい時間それもろく〱落付いてお眼にかかれなかつた事や、在園の方々に時たまにさへ顏をも園へ出さずに、勝手な注文ばかりしたことやら、評席の方當番の方に重い荷物をせをわせて、私は色々の招によつて地方をあるき、先生々々とよばれて下坐をせずにいたことや、結婚期にせまれる人達に、おもひばかりで行屆かぬ事や、兎に角自分は家庭のやうな休み場所をもちながら、妻子のある人に、靜かに休息する場所をば與へられるやうに祈れなかつた事や、たとへ新生涯に必要な事でも考へにふける時間を私はもつていながら、只一すじの托鉢を皆さんにたのんだことや、せわしまぎれに私の氣がみじかくなつたり、手紙が粗忽になつたり、わすれたり、した事など數へて見れば、私自身を咎めたい事が澤山あります。すべてこらへて下さい。全く私がたりませなんだ、力たらず德たらず準備がたりなんだ。斷はればよいはづのを折角たのま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

れていやともいわず、自からを揣らずに引受けた形になつた罪。一燈園生活は只一すじに「おひかり」にむいて往くより外ないものを、なさけまけして迷はせた罪。引うけてさへおいたらば、ひとり靜にあゆんでもらへるとおもうた罪。みなわたしがわるかつた。わたしが一すじにゆきさへすれば、ゆるむはづのないものを、四種の生活のそれ〲に力をさかれたからとはいへ、さして行くおひかりの的のその中心におらないで、さむしがらせたりしたことなど、是も全くすまなんだ。宣光社はごふしてもいる機關である、けれども復雜な處へ手をのばしすぎて、一部の人を心配させたのも私がわるい。私は一つも辯解はせまい。私はこれだけしか出來なんだのです。どうか一とたばにして許して下さい。

前の「さんげといのり」の一文は「おひかり」に對してであるが、同時に一切の方々のうちの「おひかり」にもです、これもよんでわびさして下さい、また鞭を打つても下さい。どこまでも私は私しのわるい處をば徹底しておわびを致し、此二十年の幕を一度おろしたいのであります。次ぎは私の今日からの歩みです。

私は一番さきに、自分からする。路頭にある此身一つ、二十年の前に立歸へり、われに何物をも預るまい。次ぎに法喜(かない)にいふた、そのまゝ、きのみきのままでならつゐていらつしやいと。是もよろしいといふ。されば殘してある衣ものとわたしの身のあづかりもの（一切の方にする事務の爲め改めてにあづけられなば兎も角、さもなくば己れの爲めに、また己れの家族の爲めにとては持たぬもとの單位のくらし）はともに宣光社に托し、宣光社はまた一切の友の爲めに必要なる事務を何人からか托されなば扱ふとして、さもなくば是も誰れかに渡すとして、其手始めに、早速柳馬場の家（宣光社のかれる）を引はらい、現在私の安居の場所なる、衣ノ棚の方へ引移ることにした。すると私等の部屋は二疊足らずの室となり（こゝに托鉢すれば）又私しの事務を此傍らにて取る（手紙をうけ返事をかき、來客に應接するに場所が必要とするときは）として、二尺あまりの様の前に小さき引出しのテーブルを造つてもらひ、一坪たらずの庭に二脚の腰かけとともに、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

是が新しく與へられた私しの應接間であります。夜はこの椽に敷布團をのべて毛布にくるまつてやすむこととした。

かくて宣光社は引移つて、此頃は四五人色々事務をとつて緊張していられるが、恐らくはこの位經費のかからぬ事務室はあるまじく、われにしても多くの顆まれし仕事に托鉢するに、是ならば（おひかり）のおしかりも多くはあるまじく思はれる。用事がなくばここをも出づべし、法喜もともに保光もともに。宣光社へ渡したる品物は適當の處分を此の頃にしてもらう。みな賣り飛ばしても僅少の物なり。机の引出しから棚のものまでゞなにがあるかしらぬが兎も角も宣光社でかつてにしてもらひたい。小いことでも私の氣がすむゆへ。

預りし田ノ澤鑛山は權利も義務も取まとめて、或る外護者に渡し、關係せる厚意の方々に自から參しておわびと報告とをする。行屆かなかつたことは如何なる方法にても甘んじて罰を受くる事にする。かくて、私は路頭に歸る、歸らせてもらふ。如何なるおわびもする、おとがめも受ける。

かく、私の身邊のしまつをつけ、私の心のおちつきをきめて、九月廿六日の朝五時に、震災地で買ひ求めし麻のわらじをはいて、御所へすた／＼とゆく。御苑内にさしかかると、何となく神韻にみたされる。一人の道人現れて影のつきそふよふにゆく、あとになりさきになりゆく。

ひろい砂利の道、人まだかよはず、翠濃き松、露しげき下草、はるかに警衛の人のたたずむを見る。道人は點々として落ちたる紙屑を腰を下ろして拾ひゆく、大きなるあり、小さきあり、砂利の上にまた草の中に、煙草のスイガラまでくまなく拾ふ、早きこと驚くばかり、あだかも鷄の餌を啄くがごとし。

語らず、笑はず、人を見ず、まさに無相を念ずるかの如し。

（私は茲でおことはりをさせてもらいたい。それは廿六日の記事からの書きかたが妙なかきかたであるこ

とを。そふして此道人につゐて、同じ書き方をした大正八年十一月の「光」創刊號の內に、『天華香洞錄』の題下、「茲に一つの事實あり」と書き起して、（一人あり十字街頭に立つ）とせし一人は即此道人と同じ人格なることを承知して下さい。創刊號をよみたまわぬ人の爲めに、茲に再錄して思ひを新たにしてもらふことにする。是は文藝上の趣味でもなく、全く已むを得ざることで同人のうち又は光友のうち、經驗のある人は、この書き方に同情をよせてもらへる事とおもふ。よしや私しが、ひさしい問四種の行相にへめぐつていても、園にゐらるる同人方が、まじめに托鉢をしていて下さつたのは、此道人を先達とされたのである。識ると識らざるとに拘らず。他の人のうちにあらわれようと、また、己れの心內にあらわれようと、それは問題でない。「おひかり」が個人の托鉢を路頭でみちびきたもふときは、いろ〳〵の姿になつて、見へつかくれつ、たち給ふ。次きの再錄にかかるものを、かきしは大正八年なれど道人の事實は、今より二十年前のことなり。

茲に一つの事實あり。（大正八年十一月先創刊號より抽錄）

一人あり十字街頭に立つ。人なれ共光明をうけて活ける者の如し。或は合掌して何物かを拜し、或は人の家に入りて下駄を揃へ庭を掃き、便所を潔め納屋を整理す。飢ゆれば合掌して厨房の傍らに立つ。或時は與ふる心淸まらされば受けず、或時は受けて暫く祈念するとき、與へし人の心自然に淸淨となる。不得已時に非らざれば下僕婢以上の食を受けず、席に上らず、又禮を受けず。隨喜の家に宿り奉仕してあらゆる事務をたのまるるままに爲し、甲乙丙丁の家に赴きて內外親疎の別を爲さず、家族ありと雖も互に相纏縛せず、各此生活に其日を樂しみ仕へて不安の色なし。

僧にあらず俗にあらず。無限の福田ありて、しかも同時に一勞働者なり。生活の爲めに働かず光明に養はれし故に、報恩の働きをなすものの如く見ゆ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

富者富みて惱みあり、以て此道人に訴ふれば不言の間にはや既に已れの惱みの原因を知る。貧者乏しきを歎じて此道人に救を求むれば、其自ら偸富めるを知りて、感謝と報恩をたのしむ人となる。文明の權威も此道人の前に何等の價値なく、自ら建設して自ら破壞し、無を悲しみ又有を苦しむ痴漢となり了す。天國の福音來生の欲求も此道人には一種の閑葛藤なり。就て生死を問へば笑つて答へず、道人は誰ぞやと問ふも、合掌して顔をばそむけ路頭の塵を掃く。重ねて信仰して道を問へば、唯「不德を耻づ」と答ふ。更に道を求むれば、「光りをうけて無相に歩み行ずる也」と答ふ。佛に限らず神に限らず、亦儒に限らず。みな齊く「不二の光」といふ門に含蓄さるるものの如し。

悶へ、惱み、不足、葛藤、さては一國興廢の理、世界改造の問題等も、隨て叩けば隨つて鳴る。澄徹にして明透なり。之れを歎美して頌すれば、あざやかなるは、唯「不二の光明」なりと答ふ。世間一切の思想に對して、肯定もせず、又否定もせず。唯思邪ま無くして任運法爾なるが如し。

柔和謙讓にして、勤勉なれ共爭氣なし。占領の意は無けれ共、能く生產の事を喜ぶ。

是れ人か、光明か、そも〳〵又一種の痴漢か？その人自ら識らず、況んや局外をや。然りといへども茲にたしかに、此一事實あり。

天香はじめて此生涯を惠まれしとき、かげになりひなたになり、內にありまた外にありて、みちびきしも此道人なり。

五六年此かた、あるは宣光社に名を出し、あるは講演に上坐を冐し、此の姿の道人にあわざりしに、廿六日しみ〳〵あひたるなり。道人のいわれかくの如し。）

われは道人につゐてゆく、同じやうに道を潔めながらかくして歩めば、心ひろ〴〵とする。御苑內の道が

潔まるにつれて、我家のやうな心地になる、勿体なくもありがたし。道人は正門の前にたゞずみておがむ。何をかおろがむか、われも共に合掌する。たゞ何となくありがたさにみたさる。よし、こゝでおちつかう。

高く、遠く、深く、且とうとし。何ものにかとろけこむ。もはや、道人もなし我もなし。あなかしこし。

暫くして衣ノ棚に足はむかへど、「歸る」とはおもわず、「往く」といふ氣持あざやかなり。十字街頭の我家より、衣ノ棚に宛てきし手紙にあひにゆくきもち、またたづねくる人にあひに往くきもちなり。いわゆる壹坪の應接間にゆく。椽に腰かける。わらじなりにて今日は終日事務をとり、夕方解いて坐布團をいただく。心地よし。保光はとなりの宣光社の室に、法喜は二疊に、我は椽に敷ぶとんに坐ぶとんを重ね二尺巾に長くなる、あたゝかなり。せまきやうなれど新らしき安居、こゝろひろ／＼としてうれしかりし。

廿七、廿八、廿九の三日間の御所もうではおなじ、たゞ正門前にておがむ道人の姿次第々々に丁寧なり、我また教へらるるままにおがむ。

三十日は三時に眼さむ。そのまゝおきる、雨しと／＼とふる、虫鳴く。あゝ、關東罹災の人々よ、ゆるしたまへ、我れはあたゝかなれどさだめてさむき人々あらむ。いかにしてこのすまぬ思ひをやすむべき。

水にて身をきよめ坐して禱る。電燈をともしたけれども、法喜のねむりさまさんかと遠慮する。虫鳴きつゞく雨やまず。暗中の坐、心澄み、あたりも寂びておちつく。

この時震災につゐて、轉禍爲福の三重願文を書く。

一燈園生活を緊張するとき、三重の願は此内にあり。され共特に此大事件に因みて三大願を重ぬるは、私等の心を適確に引しめる爲めである。

ひらたくいへば、此大震災をば、私達の眼をさます絶好の藥としたいのであります。三つとは、

第一　個人として完成し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

第二　國民として完成し

第三　人類として完成する。最實踐的な禱仕とはげみ。以て第一個人として、如何なることにも、まごつかぬやう、生死を超へるまでの修養をなし。第二このたびの損害をたゞにとりかへすのみならず、幸ひなるこの臥薪甞膽の經驗をあらゆる處に擴充して、更らに大きな福田と財物を殘し。第三人類は絶對に怨みあはず、愛しきれるやうに生活しあつて、眞の平和な世界を此地上に產み出す大聖業に參加することである。（是らに對しての、くはしき事は別に書かせてもらふことにする。）

右の三重願を實行する爲めに、兼ねてより光友諸君より屢希望される「光の友の會」を作つてもらふ事にいたしました。（これについても別にその要領をきいてそのかかりの當番から御相談に及ばれることとなつて居ます。）

要するに、一燈園の生活は二十年前に產れて狂ひあつかひまでされましたが、深い、遠い、尊ひところから湧き出ていますものらしく、如何なる事に逢ふても大磐石のやうな感じがします。まだ大燈明のやうな鮮かさが見へます。私はあらためて路頭からおがみ直したいのです。それでみな樣にはつきりと、たらなかつたおはびをさせてもらひ、光明祈願にある五つの暫定信條を基礎とし、さきにも申した一體二相や四種の用などの生活により、それ〴〵緊張して禱仕をはげみ、此度の大震災を反て轉禍爲福の資料となして、個人として國民として又人類としての、完成をいそぎたいのです。そふしてこれを實行する便宜として、「光の友の會」を作つてもらひ、手をひきあひ力をあはせあひして、あゆむ事にしていただいて、此際總立ちになつて「おひかり」の靈柱が天空から地軸まで、つらぬいてたつやうに、みなさまにおいのり添へを願ふ次第であります。「おわび」と「おねがひ」のあらましは、かくのとほりであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

災餘雜感

中桐確太郎

○

大地震、大火災、前代未聞の慘禍、その厄難を被られたる無數の同胞、見るにつけ、聞くにつけ、思ふにつけ、まことに悲痛傷心にたへず。

○

かゝる事變に際しては、人間の弱點も、人情の美はしさも、赤裸々に流露し來るものなり。自から省みて忸怩たるもの少からずと同時に、擧國、全世界の同情と、その中より現はれ出でたる献身的奉仕とは、實に涙にあまるほど難有きものあり。官公私の何れを問はず、諸々の團體の活動は、まさに火の出づる許りなり。局に當るものは迷ひやすきならひなれば、何くれ不行屆のこともあるべきも、局外に籠居袖手して、批評をのみ事とする者の、思ひ及び得ぬ慘憺たる苦心の存することを察せざるべからず。

○

一燈園生活は平常時に非常時を觀じ、歡樂境視せられたる娑婆に地獄火宅の相を感じたる所より出發せるものなり。その心構へや、いでたちにも、その趣きは看取せらる。然るに、その非常時が眼前に出で來り、地獄火宅の實相が具體的に現はれたる此時に當りて徒らに、しそしゆん巡するならば、これ屠龍の技を學べる者が、生ける龍の現はれ出でたるを見て遁れ走れるに類するもの、決して同人等の忍び得る所にあらざるなり。

○

奉仕は團體として行動する時、その効を擧ぐるに便なること多きはいふまでもなし。しかもまた各自、緣

に應じ、機に臨み、その持ち場に立ちて、その心を盡し、力を竭くし行くことも、地下水行としては中々に、ふさはしきものもありといはざるべからず。

○

所謂る救護の事業に當るものゝ中には、或は自己の名聞、若しくは利得のためにするものあるべし。或は世の治安平和のためにせんとするものあり、かゝる中には、やゝもすれば災厄を免れたる人を主として顧慮せる打算に囚はれるもののなきにあらざるべし。然れどもまた、至情流露、眞に救護を要する人のために慰撫救恤の誠を盡しつゝある者もあるべし。かゝる中にも慈眼愛腸、終始一生なるものもあるべく、たゞ一時突發的にして止まるものもあるべし。完きを要むべき世にもあらねば、今更に純雜本末を論げつらふべきにあらじ。たゞ一燈園同人としては、如何なる救護に從事するにしても、必ず離るまじきは、根本の願によれる祈りの立場なるべし。祈りは言葉にてするあり、行を以てするあり、自己の生活を以てするもあるべし。その形ちは如何にあるべきも、要するに、すべて所謂る托鉢となり、懺悔の奉仕とならざるべからず。然らずば、一燈園生活存立の意義は空しきに歸すべきなり。

○

震火の慘禍、帝都の大半を壞滅に歸せしめたる時、天譴といへる思想は、電の如く、嚴かに、萬づの人の胸臆を射れり。これ豈に凡ての人の心の奥に潜める自他一體感の閃光にあらずや。然れども個體に即して之を觀ずる時、災厄を被れるもの皆罪ありて、災厄を免れたるもの皆、天譴に値ひせざる者なりと謂ふを得べきか。天意玄奥もとより測知すべきに非ず。但だかゝる時に際して、毎に今更の如くに感せらるゝは、爲すべき事をなさで來りしとの懺悔なり。而かもまた、その懺悔の念をそのまゝに實行にあらはし得ざることを思へば、更に懺悔の新たに加はるを感ぜざるを得ざるなり。げにも此度の災禍は我等に取りて痛烈なる天の鞭撻なり。襟を正しうして深く省る所なかるべからず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

虫のいい社會

—しんさい雜感のうち—

藤井悌

こんどの震災の怖ろしさ物凄さは筆にも口にも及ばない。いや心ではつきり思うてみるさへ不可能である。事去つて一ヶ月、はやすでに其の印象はぼんやりして、たゞ言ふばかりなく巨大な、漠々たる恐怖の雲が、ふりかへりみる地平線をおふひ包んでゐるだけである。實はあの大變に直面した刹那にあつても、われらの感受力は、明かな印象を受けとるには餘りに小さく弱かつたのである。

十萬の人が一時に死んだ、しかも其の死にざまは何たるむごたらしさであつたらう。誰かいゝ輕々しく「天譴」をいふ。かの悲むべき犧牲者だちは、幸ひに免れたわれらよりも、天譴の矢面に立つべくより多く値ゐしてゐたといふのか。震災のために却つて利を得る地位に置かれた者は、ソドムを逃れたロトのやうな義人の族であつたとでもいふのか。偶然の出來事に對して、大急ぎで安ッぽい道德的の言葉をあてはめるのは、深い意味もなしに言つてみるのだとしても、とにかく苦々しい惡癖である。愼むべきであらう。

本所被服廠跡は永久に呪はれた場所となるであらう。人間の記錄は未だあゝまで無殘なものを知らないのである。しかしあれほどの事に立ちいたつたのは、一つは避難者だちが持ちこんで山と積んだ、荷物のためであつたともいふ。そして其れを惡しざまに言ふ人もある。大川の橋といふ橋が、ほとんどみな燒け落ちたのも、やはり其の上に持ち出した夥しい荷物のためだといふ。また、狹い町々を逃げ惑ふ老若男女が、荷物を積んだ車のために行手を遮られ、或は其れに躓いて仆れ、甚しきは背に負うた赤兒の頭を箱などの角にぶ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つけて、むざ〳〵死なしてしまつた、といふやうな話もかず限りなく聞かされた。人間の慾の淺ましさを罵る人も出て來るわけである。

さりながら、荷物を抱えて燒け死なねばならなくなつた人の、その身になつてみれば何といふ悲しいことであらう。よしや助かつて生き殘るとしても、一物もなければ直ちに饑寒に追ひ迫られねばならぬ今の世である。生存に缺くことのできない資料が、全く各個人の任意の自辦に委せられてゐる社會に、永年馴らされて來たわれわれとしては、非常の場合本能的に物を持ち出すのも、まことに已むを得ないのである。われらは慈善に縋つて生きたくはない、況して世間から厄介もの扱ひをされて、死にきらず生ききらぬ存在を續けたくはない、さればとて饑寒のために默つて冷え固まつてしまひたくもない。われらの人間としての最小限度の尊嚴、否われらの唯の存在さへも、物を持つことによつてのみ保たれるのである。さればこそわれらは、いかに非常の際でも、ともすれば命と物とを同一運命に委ねるのである。私は其れを善いといふのではない、已むを得ないといふのである、社會惡の影として見るべき個人惡だといふのである。

悲しきは巷をさまよふ失業者の群れである。知能的または筋肉的の勞働者にして、震災のために職を離れたものは二十餘萬と言はれるが、半生の精力を小さな店舖と僅かな家財に注ぎこんだ小商工の、一夜にしてそれらを悉く灰にしたのも少からぬことであらう。これらの人だちこそ、その勞苦多かりし過去の全部を燒いてしまつたのである。物なくして稼ぐすべは彼等は知らない、勞働の熟練はもとより、之に要する體力をも今ははや失つてゐる。そして此の、命と同じ値ゐの財產を保障することが、おなじく保險會社といふ個人の信用に委せられてあるがゆゑに、こんどのやうな場合には遺感なく、その賴むべからざることを曝露したのである。

生存資料の調辨が、全く各個人の偶然の機會に委せられてある以上、無產にして且つ收入の途を斷たれた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ものが、どうなつて行くかは事あまりに明かであらう。職業か衣食かの孰れかを與へよ、それは社會の最小限度の責任である、これを濟ましてから、始めて「惰民を作る虞れ」を云々するとも遲くはなからう。この雜誌の世上に出るころ、若しこの叫びが、むだになつてゐたなら何よりの幸である。

罹災者か地方に分散すれば、もう安心してゐる人がある。また、とにかく親類か知人の家にもぐり込めば、もう心配に及ばないと考へてゐる人もある。しかし其の親類や知人といふのが、たいていは辛うじて其の日の身すぎをしてゐるに過ぎないことを、彼等は想像し得ないのである。いつたい支配階級の人だちは、今日、中流とか中産とかいふ誤つた名で呼ばれてゐる階級の中でさへも、主人が半月も病氣で寢たら、借金をせずに濟まされる家がいくらあると思つてゐるのだらう。永年かゝつて漸く築きあげた家計の秩序を忽ちにして破壞されて、氣を腐らしてゐる人は罹災者以外にも實に少くないのである。共仆れは決して賢明な行きかたでない。現に一たん田舍へ退いた人だちが、このごろ續々歸つて來るのは、多くは不如意な他人の家に長く割りこんでゐるに堪へないからである。

私は社會の虫のいいのに驚いてゐる。社會自身の負ふべき義務を、ここでも偶然ぶつかつた個人の負擔に移して、どうにか其れが移りさいすれば、もう忘れてしまつてゐる。これは今度の震災の場合に限らない、不景氣による失業に對しても、日本には家族制度の「美風」と、歸農といふ便利な現象があるからと言つて、案外呑氣にかまへてゐる人が多い。度し難いのは今に始まつたことではない。

われらは隣人の不幸を坐視するに忍びない。しかし無際限に己れの身を削つて隣人を救ふわけにも行かぬ。かくして自分自身が獨立して生きることのできなくなつたとき、現在の社會は決して顧みてはくれないからである。今日われは靴を脱いで跣足の隣人に與へることはできる、明朝わが戸口に代りの靴が並んでゐ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ることを誰が豫期しよう。ここはフェアリーの國ではないのである。もし世に失業と病氣とがないならば、少くとも私は一物の貯へをも累はしとして避けるであらう。たゞわれらは現實の世相を直視するがゆゑに、妻子を隣人の厄介と世間の輕侮とに曝すの危險を冒し得ないのである。(かうは言つても、實際は尠く曝して置くの已むを得ない境遇にあるのである、苦笑を禁じ得ない)。社會の義務は社會をして負はしめよ、われらは社會の成員として、この義務の合理的なる遂行に參加するであらう。われらと隣人ともろともに、互の個人的恩惠に倚りかからんでもよいやうな社會の實現に努めたいものである。

物を持たざれば人がましくは生きられぬ世に、ひとり物を持たざるはいかに悲しいことであらう。持ち過ぎて惱むのは心がらである、われらの與り知るところでない。持たざるものは兇險となるか卑屈となるか、二つのほかに先づ行く途はなささうである。社會の基礎を無所有に置くべく鬪ふか、たゞしは自らも喘ぎ喘ぎ所有のために爭うてみるか、凡夫の行く途は二つに一つであるのではなからうか。いまさらに惑はざるを得ない。

まことに相互扶助は美はしい觀念である、また人生を支配する確實なる法則である。しかし其れは社會といふ統制の下に、社會といふ大きな力を背景として、始めて公平且つ有効に行はれるのである。組織のないところには常に偶然が働く、偶然は決して公平ではあり得ない。ゆゑに此の偶然を制御しないで置くと、善を行はんと心がける人ほどより多く氣を腐らし心を焦だたす。また個々人の力は多寡が知れてゐる、況して今日隣人を愛することを心得てをるやうな人は、得て富まざる人のみであるに於てをや。その貧弱な給付能力を以て何ほど人を滿たすことができるといふのか。結局は我も仆れ人も仆れるのほかはないのだ。かかるはたゞ善良なる空想家の、はかなき自己慰安に過ぎない。そして此のことたるや、ひとり物を以てする慈善

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

のみに限らない、かの勞働を以てする奉仕の如きも、組織を缺き全體の力を背後にひかへてゐないときは、善のむだづかひに終る場合が往々にしてあるのである。經濟に於てフエイタルであるところの浪費は、人生そのものに於てもフエイタルであるのだ。要するに公平と有効、(EQUITY及びEFFICIENCYの二つEのである)、これこそ社會問題に關する最初の原理てある。そして其れは物、力、負擔と獲得と、凡そ人生に有用なるもの又は避くべからざるものの一切を、善そのものをさへも社會化するといふ方向に進まなければ、確實に打ち建てられることはできない。

街頭に立つて行人の私語を聞く。そして、出所不明のプロパガンダがいかに有力に人心を惑はし、いかにもの狂はしき衝動に人を驅るかを思ふ。組織的で大仕掛で矢繼早な「流言飛語」は、群集の判斷を一時に奪つて、彼等をして自らも知らぬまに取り返しのつかぬ大事をしでかさせる。

とにかく震災は不可思議な副産物を殘した。苟くも「將來」を目ざすものは、すべて惡魔にされてしまつた。黴のはへたデモクラシーさへも、何だか不逞の仲間入りをさせられさうになつて來た。反動の怪物は背後でニヤリと笑つてゐる。

帝都の復興か、眞日本の建設か。われらは萬民の眞に公平なる給付と、眞に能率的なる統制とによつて、眞に道徳的なる國家の建設にいそしみたいと願ふ。

さるにてもよくも破壞されたものである。その日から早や一と月になるが、顧れば今なほほんとうの事とは思はれない。しかし考へてみれば、地の上に勝手に湧き出た蛆だもの、その蛆の蠢めきまはつた營みが何とならうと、自然に何の責めがあらう。一切空寂舍、せめて今夜は、なにものに向つてかわれ自らも知らねど、合掌して祈りながら眠りに就かう。

(大正十二、十、二)

社會事業團體大震災對策私案

——社會事業團體協議會委員某氏にあてたる——

松下吉衛

一、悲慘なる罹災者と困苦を分つといふ意味で、各自生活の單純化を躬行し、剩餘の財は總べて喜捨すること。

二、各種社會事業團體から各所のバラックに罹災者と生活を共にする奉仕者を出來るだけ數多くおくり、保育、療養、人事の相談に應ぜしめること。

バラック奉仕者は日本社會事業協會委員會と提携協力して罹災者の善後策を講ずること。

奉仕者の生活資料は、原則として、その奉仕する罹災者からの供養をもつて充てること。かうして無所有奉仕生活の安泰が目のあたりに實證されれば、無一物にされ、職業を奪はれた罹災者の多くに、精神的にも物質的にも平安を與へ得ること少なくないと信ぜられる。

三、日本社會事業協會委員會を組織すること。

同委員會は各種社會事業團體の內容を精査し、之と密接な連絡を保ち、バラック奉仕者の報告に應じて適切な救護法を實施すること。

四、資本家工場主に對して强制力をもつた國營職業紹介事務の急施を、日本社會事業協會の名を以て當局へ建議すること。

五、青年團員、在鄉軍人會員等の社會奉仕が勞働市場の攪亂を來たさないやう指導されたき旨、當局へ進言すること。

——十二、九、二十三——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

猛火の洗禮

松下生

〇

不思議な命だつた。叔父を燒きし火、叔母を呑みし火、罪しらぬ從妹を奪ひし火！東京だけで二十幾萬の人が死んでゐるといふのだ。九月一日午前九時なにがし、郷里栃木から上野驛へ着いた自分、本所に叔父を訪ねんとして、ふと思ひ止まつた自分、かくて、生き長らへた自分、この自分は？

〇

助かつた自分！ああ、何にも言へず。嘻しいか？知らず。悲しいか？否。空しく焦土に立ちつくして月色ものすごきまで冴えたるを仰ぐのみ。

〇

これ、叔父の骨よ、これ、叔母の骨よ、これ、從妹の骨よ！女中なにがし女等のために、あと數片を拾はん。南無佛！ああ、いつそ白骨をかまんか。切なし。本所被服廠跡よ、永遠に呪はれてあれ。

〇

累々たる死屍の燒かれて居る傍に小屋いとなんで題目に餘念なささうな僧あるを見た。僧と並んで世話人格の男が控へて居た。凡そ詣ずるほどの者、いくばくかの布施をつゝまぬはなく銅錢白銅錢等山と積まれてある。自分はどういふものか財布の口をあける氣になれなかつた。それでも、痛む足を引きずつての歸途、「疲れたら乘るがいゝ」と無雜作に吾が嘆願をいれて、萬世から爼橋附近まで自分を乘せてくれた荷馬車ひきの手に無理おしつけになにがしかの札を置くことは禁じ得なかつた。忘れ得ぬ彼れが鬚くちやな赤銅色の振りかへりざまの人間面よ！

〇

吾が從弟の哀話にきけ！本所なる彼れは、兩親伯

母女中（恐らくは愛犬をもつれて）もろともに、彼の被服廠跡にのがれたのだ。運命の呪よ！しかし、常識はあの場合最も健全にさう行動せしめたと云へやう。いざ被服廠構内に入らうとする時、彼れは先づ家族を進ませた。續いて殺到し來る避難者の幾人かにも順をゆづつた。さて父母の後を追はんと、彼れの足が構内に踏み入らうとした刹那、急かに大旋風うづまきあがつて天に冲する火柱が立ち、見る見る雨親達はその中心へ吸ひ込まれて行くので、どうでもして助け出さうとあせつたが、手足の自由がきかず、身をもがいてゐる中に、どういふ拍子か、被服廠前のドブの中へ、はねとばされて落ちこんでしまつた。尙も兩親の名を呼び續けたが、たゞ大勢のわめきが聞えるばかりで答は更になく、その中に意識がいつかボンヤリとなつたらしく、氣がついて見ると、あたりは大分下火になつてゐたので、再び、兩親達の名を呼び廻り、そちこち構内を探ね歩いて、飮まず食はず二日間も過ごしたけれど、遂にそれらしい死屍すら見當らなかつたと。

從弟、年二十一。今、早大露文科在學中。家財と家人との總べてを失ひ、彼れ自身また頭部と脚部に負傷して悄然たる孤影を吾が前に現はす。吾、言ふところを知らんや。

〇

哀話はこれにつきじ。

鄉里にありし從妹が、市電氣局在勤のさる工學士と新婚のホームを本所横網町にトしたのは、僅々數十日前のこと、兩親の悅びたゞならず、知れる誰れ彼れも、その東京生活を密かに羨望して止まなんだといふ。

然るに、今回のこと突發し、今もて生死不明と傳ふ。眞に有爲轉變を思はしめられる。因果應報は知らず。虫も殺さぬあんな娘が燒かれようとは……たゞ默して祈らんか。

〇

一日夜、托鉢先O氏の婦人子供十人ほどの組が、荷の番を最後までしてゐた男達と待合はせる筈になつてゐたN侯の門前に見當らなかつたので、多分K河岸の店の方だらうと考へ、そつちへ探しに行くことにした。路は右徃左徃の避難者で名狀しがたい混

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

雜。日比谷公園の側を通つて二重橋前の廣場に出ると、芝生といふ芝生には、もう一パイの避難者がつめかけてゐた。和田倉門（?）から出て神田橋の方へ向はうとしたら、前方は一面の火、とても進めやうがないので、路を右にとつて省線神田驛近くまで足を運ばせたけれど、そのあたり雜沓殊に甚だしく、荷車、馬車、自轉車、大風呂敷を脊負へる、鍋釜を持てる、乳呑子を抱ける、老人の手を引ける、叫ぶもの、罵るもの、悲鳴をあげるもの、力つきて佇める母子 車軸くだけて進まぬ車 その中を疾驅する壯者、騎馬を走らす憲兵等あり、私等も、進むもならず退くもならず、途方にくれてしまつた。三越の白煉瓦は、まだ、燒けずに立つてゐるのが見えた。

無理にも私等は引返す外なかつた。

ふと群衆の中に、風呂敷包を擔ひながら左手に釜をさげ右手に四ッ五ッの子供の手を引いて喘ぎ〳〵行く三十恰好のおかみさんが目にふれた。私は本能的にその子を脊負つた。おかみさんのお禮の次ぎの言葉は、どこへ行けばよいかといふたづねだつた。彼の女はついそこで亭主にはぐれたのだといふ。昨年上京して店を出してから一度見物に案内された外めつたに外へ出ないので、東京の東西は皆目わからないのだが、皆がこつちへ來るから後をついて來たのだと語る。さもあらう。この邊としては、二重橋前が一番安全だからと話してつれて行つてやつた。トルストイの「戰爭と平和」の中のナポレオン軍侵入のくだりが胸に浮んだ。

○

芝生にも寢た、土にも寢た、砂利にも寢た。砂利が一番温かかつた。

砂利の温かさよ！

○

お堀の水でたいた冷飯の味よ。

○

日比谷公園の猿と鶴とが何者にかやつつけられたと聞いたとき、配給物資を私した青年團長に對するより以上の情なさを感じた。

○

「この際」をふりまはされるのもあてられるが、この際、すまして居られても癪に障る。關東、地大い

に震ひ、幾十萬かの人間が横死したのは事實だぞ。

○

今回の大震災に、最も醜なるものを見たり。燒け爛れたる娼婦の死屍か？あらず。暴利商人の徒か？あらず。部下をつかつて鷄まで出し悠々舟に乘つて避難したといふ某警察署長か？あらず。然らば、岩崎家の義捐金五百萬圓か？あらず。曰く、人もなげなる慈善事業社會事業の專門屋面これ。

○

そのおしろいをおとされよ、而して、素顔と素顔と對すべし。凡そおしろいして美しくなり得るもの世にありや。吾は美を好むが故におしろいを惡む。

何、みだしなみとや？

今、大正十二年九月一日以後なり。

○

らつきようはかなし。むけども／＼皮あり。皮なきに至つてやめば、即ち無。げに、らつきようはかなし。

○

上野公園を過るに筆太の宣傳ビラが目につく。曰く「限りなく深くあれ。」曰く「限りなく高くあれ。」曰く「心壁を破れ、世の中は廣い。」曰く「愛が云々。」何者のいたづら書きにや。近頃、心なきわざといふべし。

○

自分は、確かに、同人をせめることがある。何といふことだ。世話役はよき修行よ。勘辨してくれ、みなさん！

○

人間が人間を支配する。そんなことがあつてよいものか？世話役としての私にかりそめにもさうした態度が見えたら、ぜひ、忠告してもらはなくちや。自分は人間の分を忘れたくない。

○

人間カルトの要を、此度、つく／″＼感じた。道に志したゞけでは完成を意味しない。大抵は薫習が殘存する。みがきみがいて人間のきぢを出しあはうよ、同人諸兄姉。

○

無所有奉仕の生活の安泰なことが實證されれば、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

體一つだけ燒け殘つたといふ幾十萬かの罹災者の不安を鎭靜せしめ、進んでは災禍を轉じて反つて福德となす上に、何ものにも增した權威(ちから)とならう。同人光友諸兄姉の托鉢熱禱を要とする、未だこの秋の如きはあるまい。失職者無慮五十萬。配給米もやがて止まう。バラックのこもじきでどうしてこの冬が越せるか。

東京へ！東京へ！東京は托鉢者を渴望す。

○

出會ひがしらが命のやりとりだと覺悟しながら、おれは、この頃、斷られ通しだ。しつかりしろよ、年も考へろ！

○

「こんどの災害は、人間のみせしめには、ほんとによかつたと思ひますわ。」

「お前さんの言葉は甚だよい。お前さんは、しかし、お前さん自身、死ぬやうな目にあひ、全財産を灰燼にされ、お前さんの親を失ひ夫を失ひ愛兒を失つても、尙さう言ひ續けられますか？」

○

先づお前さんの帽子をお出しなさい、指を飾るギラ／＼するものをお出しなさい、目がねは金ぶらでなくともお間にあひでせう、時計もね鎖もね、腕に下げてゐられるそのブラ／＼したものも無くて叶はぬ必需品ではなささうですね。顏に塗られるもの香の高いものについては、お前さんの尊嚴のためにお考に任せませう。

社會事業を云々されるなら、少く共、これほどの落飾がなくてはね。社會事業は、申上げるまでもなく、優者の劣者に對する恩惠とは最も距離の遠いものです、ソリダリテ・ソシアールの思想が基調でなければなりますまい。

なに「趣味」ですつて？私は私の耳を疑ひたい。

○

「こんどは、何ぼ何でもこりたゞらう。」

「さうだらうか？」

「無常ぐらゐ感じたゞらう。」

「ちき忘れちまうさ。」

「東京は、しかし、とにかく、改造されるだらう。」

「道幅ぐらゐはね。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

「大分、悲觀論だな。」
「世の中つて、そんなものよ。」
「おれはモ少し世の中を信用したいね。」
「ウン、君はね。」

○

被服廠跡に立ち累々たる死屍を見ておのづから稱名が口に出たと話された人がある。やつぱり、正しく知ることがいいのだ、人に善所する道を敎ふるから。

資本主義制の下では、血は不斷に流れつつある、紡績工場から、農民の陋屋から。たゞ巧妙を極めたからくりのために、世人の正視より隱蔽されてゐるだけのことだ。

○

「子供の家」――託兒所といふ言葉が變にひびくので、かう呼ばせてもらふことにした――が青山原頭明治神宮外苑に禱建された。大震災に對する一燈園同人のいのりの結晶だ。お氣の毒な罹災者方の幼兒を二百名ちかく、男女を交へた七名ほどの同人でお世話してゐる。外苑バラックは一萬五千人の收容力があるよし。鮮人も二千人ぐらゐ避難して來る筈。「子供の家」を中心にしてバラック村へ托鉢するのは、ずゐぶん、意味があることと思ふ。「子供の家」には、赤、白、緑の旗が高く揭げられてゐる。緑色の地に、白く「子供の家」の文字を拔き、黑で緣とりして文字毎に赤で後光を射らせたのだ。自分だけはバカに氣に入つた。旗よ、ひるがへれ、高く高く！

○

「子供の家」は荒むしろじきだ、すきまから風は吹きこみとほしだ。オルガン一つなく、普通の托兒所や幼稚園に見るフレーベルの恩物、モンテッソリーの敎具等何一つ備へがない。同人達が寢るにしても、毛布が一人一枚の割にすら配られず、やむなく、むしろをかぶる始末だ。食事も市役所出張所へいつて、いとつつましく分けて頂いてゐるにすぎない。でも、ここでは、人間だけは生かさなくては。

○

「子供の家」の標語「ナカヨク、ケンキヨク。」
一つしかないものは幾つにでも分けようよ、サア手をつないで聲高く歌はう、こどもたち！

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○

同人はうれしい。

ある夕
同人が八人も
京都の一燈園から
ここ「子供の家」についた、
ほんとに思ひがけなく。

一日おいた午（ひる）ちかく
同人が、また三人
こんどは北海道からついた、
ほんとに思ひがけなく。

同人はうれしい。

○

やるんだ
一生けんめいやるんだ！
金か？
金はない

——涙こぼるる。

○

いつか、こじきこんじようにだしたのか、
「あなたはおちようづです。」といはれた。
「このさいおせじはぬきにしませう。」とも いはれた。

なまなか、はちをしるおれは
きはまりなくかなし。

○

猛火の洗禮よ！更生の吾れに力あれ！
こんど甦り得ずば何の時に甦り得ようぞ。
本氣なんだ、たすけてください、ゆるしてください、
みなさん！

（十二・十・二）

○本號表紙題字　は青山外苑バラック「子供の家」に來てゐる罹災者の一幼兒（六歳）に書いてもらつたものです

○九月號　印刷所へまはして あつた原稿が燒かれたので發行出來ずにしまひました。御了承を。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

青山外苑バラックより

K　M

N兄

お見舞狀をいただきながら、はがき一枚かかず、ほんとにすみませんでした。震災の模様については、今更申上げますまい。私は、とにかく、命びろひしたのです。

一燈園の在京同人が慘害に對するいのりとして「子供の家」を青山の明治神宮外苑バラックに開かせてもらつたことは、既に御存知でせう。救護事業は、表面上、秩序よく運ばれつつあるやうに報ぜられてゐますが、親しくバラックに住んで罹災者と生活を共にし、朝夕いろいろのことを見聞きしますと、問題が餘りにととのつて居ないのに驚かされます。

九月卅日京都の一燈園から同人が多數見えたのを機會に、市のバラック係の方に何なり手傳はせてもらひたい旨、申しいでましたところ、殊の外、よろこばれ、すぐその翌日から、一つの事務所を任せられました。人手が足りなかつたのでせう、前の方から事務の引つぎを受けたのですがバラックの戸口調査らしいもの一つ出來てなかつたので、何もかも初めからせねばならず、一寸、面くらひました。しかし、これは、一燈園同人の組織的托鉢として最初の試みであり、從つて將來に影響するところも決して少くないことを思ひ、私等は神にいのり同人とはかつて、次のやうな部署を定めさせてもらひました。

▲青山外苑中部バラック事務所

調査係	伊藤猛	矢野進	植松無庵
	石塚豊文	小林勝太郎	
配給係	鈴木啓文	小林古稜	嵯峨德水
	中西愚童	丸山光治	
人事相談係	八田勝三	夏井庄藏	
受附係	立山不退	黑澤正夫	

▲同上西南バラック事務所詰

岩淵金三郎	迎久藏	行本健一
高野茂吉	田原伴次	山田講壽

▲子供の家

松下吉衛	赤木嘉	ていしげ
杉谷靜代	齋藤きい	佐々木ゆき

▲總務部　松下吉衛　伊藤猛　立山不退

▲顧問　中桐確太郎

この外、天香師を初めとし、小此木長老や繁田四郎、大塚琇雄、拜田白露、林、三上和志、島田龍彥、磯山松男、浦岡小藤、平岡とみ、大屋英子、吉田蔦子の諸兄姉がお見えになつて、督勵添禱してくださつてゐます。(今夜はゆつくり筆をとらうと座つたのですが、急な用件な滯びた方が見えたので、これでやめておきます。いづれまた。)

大正震災の歌 （二十五首の中）

福原俊丸

空をおほふ業火の海に高く低く焰の波の狂ひくるふも

水の上を匍ひつつ狂ふ魔のほのほ帆を舵を燒き舟をも人をも

二日二夜あらびし死魔の疲れはてて倒れしあとをさまよふ市人

電線(はりがね)は落ちてもつれてささがにの蛛にかも似し電車のむくろ

廣場の隅燒け殘りたる一夜宿玩具らしきがちらばり居るも

雨雲をうちつくる風狂はしも半碎けし高樓のあたり

たちさわぐ人の群をしあやしみか御堂の軒ゆおり來ぬ鳩はも

今日もまた地震うちしきり益良雄さをそしみ居れごこころ落ち居ず

（般若十八空の內，內空のこころを）

夢の如き燒野か原の築地河岸柳並木もみな燒けにたり （外空）

歡樂のちまた今あらすありし日の面影消えぬ我まなこはも （內分空）

地震(なゐ)ゆれは我家おそろし靜もりて虫の音(ね)きけはわが家こひしも （空空）

花の都は今みな失せつかきりなき武藏大野は住めよきものを （大空）

天の火にやくへきものはみな燒きし秋のあしたのすがすがしもよ （第一義空）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

地上のなやみ

入田まさる

東京は東京は今大地震に火事と海嘯の渦巻けるてふ

新聞社前に集る人波に幾度もまれ泪ぐみけん

自動車が巻き散らしたる號外の二人に裂かれ又合されぬ

ゆくりなく札幌に居り東京の友思ほへば泪はてなし

寂しさに占ひをしつ東京の生死もわかぬ人々の上

北海道にて

原始林彼方に聳え一條の赤土道ははるかなるかも

標識に防雪林と書いてあり冬思ほへば泪ぐましき

土見えず茂り合ふ樹の名も分かず何處ともなく秘む寂しさ

四辻にカンテラ暗く夜毎／＼とうもろこしを媼ひさげり

死刑囚丁樣の前に

夏まひる赤き煉瓦は眼に痛し寂しさにふと仰ぐ青空

晝食をたうべず待てる人々の期せず話せり身の上話

ふし穴ゆ面會室を覗きこむ子の袖ひける母の面よ

赤煉瓦ついと飛び越え雀子のとび去りし後見入る囚人

ゴルキーの監獄の歌刻まれし爪あと殘る壁に眼閉る

三時間待ちたる後に五分間看守の前で話し別れぬ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

句與二題

侶乘

洛東私抄

春曉の人出て立てり一燈園

靈鑑寺上に道見え春日かな

春の日のうらに暮れ居り鹿ヶ谷

青竹を結びて欄や若楓

一燈園上の瀧道京見ゆる

呉座敷いて瀧壷しもの積かな

夏草に上げて蔀や一燈園

常久（とことわ）に銀漢あらき鹿ヶ谷

一燈園尾花を活けて女部屋

塵取に朝なあるもの蚊の骸

轡虫（がちやがちや）に草に灯なげて一燈園

秋草に東寺は遠し鹿ヶ谷

つばくらめ去つて久しき如意ヶ嶽

何處よりけむる晩夏や銀閣寺

銀閣寺とざし更け居りぼん踊

蜩や魚板又なる銀閣寺

谺せぬ秋山さびしなく鴉

比叡讃抄

堂守が午寢ざめなる比叡かな

撫子や四明ヶ嶽の巖ごころ

嶽上に髮梳く汝れや大霧の旭

老鶯や日の出見て來し登山衆

力餅搗くま床凡や囀れる

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

陽は沈む

すゞき五らう

晩春の夕方
この頃　居所の知れなくなつた友達の
住居を探しながら
ふと　湊川の衆樂館の前を
通りかかつた
「樂聖クライスラー氏大演說會」
大きな看板に
鮮かな文字で書かれて居る、
おお、今日は　クライスラーの
演奏會のある日だ、
さすがに　胸を打たれる

思はず立停つて
看板を仰ぐ、
まつ先に

世界一の
大提琴王　クライスラー氏
その次に
樂壇の驚異
千載の一遇
その次に　稍や細く
クライスラー氏は一八七五年
二月二日ウ井ンに生れ………
………氏の藝術は艶消しのか
かつた銀の器のやうであると
…………………文「紐育の
キリスト」と云はれる程立派
な人格の所有者で………。
ところで　入場料
一等　七圓　二等　五圓
三等　三圓　四等　二圓

ああ、何れも尤だ、
黑い筒袖一枚の私は
考へ込んだ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「紐育のキリスト」が
日本へ來ると　一夜の演奏に
最下等でも二圓取る、
それは　無産者にとつては
絶對的の入場拒絶も同様だ、
クライスラーは紐育の孤兒院へ
年六萬圓づつ寄附するそうだ。
その爲に　こんなに高く
取らなきや　ならないのだろうか？

ままて
こんなに高い入場料を
拂ひ得る人は　何處からか
それだけのものを　奪つて來なければ
ならないのでは　あるまいか、
そうすると　その事が
ひよつとすると　救つても
救つても　後から　後から
否　その前に　その前に
何十倍　何百倍の　孤兒を

老廢者を　不具者を　病人を
作つて居るのでは　あるまいか

ああ、危ないぞ！
大きな自動車が滑り込む
人方軍が驅け込む
金の前には　私の朽葉の様な私達が
もうぐずぐずして居る所じやない

私は歩き出した
しかし　まだ考へて居る、
藝術が　殊に音樂が
一日　喧噪で單調な
工場の中に居る勞働者に
最も必要なことを
思ふものだから——

高い建物の蔭を離れて
交叉點へ出ると
まだ　西陽が強く射して居る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

空車を曳いた車夫が　汚れた手拭で
赤銅色の顔を拭きふき行く
背中と胸に　時計屋の廣告をぶら下げた
サンドウヰチマンが二人
よぼよぼ行く
兵隊さんが行く
工場歸りの茶葉服の勞働者が
元氣そうに行く
蒼白い會社員も行く
藝者も行く
子供を連れた　お神さんも行く
材木を積んだ荷車が
白つつじを一杯積んだ荷車と
擦れ違つて行く
電車が大きな圖體で
ひつきりなしに　ゴーゴー通る
乘つてる人は　みんなお目出度い顏をして居る、
おお、血の樣に眞紅な夕陽は
夜のうちに一切のものを殘して
今日も靜かに沈んで行く

露　店

セメント道路の片隅に
樟腦賣りの小娘が
今夜も店を張つて居る
青い電氣に照されて
淺い朧夜がふるえてる

物の怪

夕暮に
赤いポストの口を開けたらよ
中でもくもく
何だか居たよ

南瓜(かぼちゃ)畑に
今朝も出て見たらよ
子猫が三匹
踊つて居たよ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

子供の家から

まつした

一燈園としても、此際何とかせねば、あまりに、ひどい慘害だから……かうした氣持で中桐先生、藤井兄、伊藤兄及び私が協調會の一室に相會していのりの具體策を練つたのは、救護事務の既に第二期に入つた九月中旬の或る日であつた。(忙しすぎたので、つい何日であつたか忘れた。)理想としては、いろ〳〵の案も議にのぼつたが、組織も資金もない一燈園同人として實現の可能性ある仕事といつては、さうはない。結局、子供のお世話でもさせてもらはうといふことになり、吉田市助役あての紹介狀を藤井兄に書いていただいて、中桐先生、伊藤兄、私の三人して市役所を訪れた。吉田助役は一燈園のことを御存知だつたので、話が、まつすぐ通り、市の社會教育課長大迫氏をお呼びくださつて私等の來意を告げられた。大迫氏とは私も鄉里の少年團ヂャンボリーで親しくお會ひしたことがあるのであるがその時はカーキー色のユニホーム、今日は黑筒袖の托鉢着、みなりの違ひが餘りひどかつた爲めか、私とわかるまでには多少の時を必要としたやうである。希望は何の無理もなく叶へられ、托兒所開設の豫定地に明治神宮外苑バラックを選擇する自由までも與へられて、翌日には、懇ろにもバラック主任神氏と共に自動車を驅つて實地調査をする便益を供された。

外苑バラックは優に一萬五千の罹災者を收容するに足る規模だといふ。幾十棟かの中、やや中央に近い一バラック五十坪あまりの建物を貸していただくことにした。

私は、即日、準備にとりかかつた。この際だからといふので、市からは、荒むしろの外、何一つ設備上の力をお借り出來なかつたには、無を標榜して修行してゐる一燈園同人として、正直のところ、少しは弱つた。中桐先生は大丈夫ですかと幾度か念を押された。私は大丈夫ですと答へて、先づ在京同人のいのりをバラックへ集中的に働くようお願ひしたところ、直ちに黑澤兄、山田兄、高野兄、田原兄、夏井兄伊藤兄、鄭姉、浦岡姉、吉田姉、渡邊姉等の心からな贊

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

同を得られたのは、ほんとに嬉しかつた。今更いふまでもないが、何をなすにも人ですもの。やがて八田兄も北海道から歸京してこのいのりに參せられ、ひどい土砂降りを衝いてまで、これらの同人達が、或は有緣の方からの玩具繪本衣類等の供養を受けに、或は托兒所內外の設備や整調に、懸命の力を注がれたので、兎も角も、九月二十六日には子供をお世話できるまでの運びになつたのである。

　托兒所といふ言葉が好ましくないので、ここは「子供の家」と呼ばせてもらうことにした。

　荒むしろ敷きトタン屋根では、わが子供の「家」として、何ぼ何でも殺風景すぎるので、萬國旗や折物をつるして室內をかざつた。子供の下駄箱、傘掛け、湯呑場等みな同人の手でつくられた。

　子供等よ！オルガンがないとて、ピアノの音がしないとて寂しがつてくれるな。少しは拙くつても一所に歌はうよ。サア、鼻だけはかまう、あそこに新聞紙のきつたのがつるされてある。

　おやつは、毎日午すぎ一回、市から何かしらいただける。ビスケツト、豆、おせんべ、ドーナツ、パン、牛乳、ミルク等いろいろ日によつてちがふ。

　おやつ時といふと、其邊に遊んでゐる少し年かさなのや、お隣りの市營圖書館に來て居る子まで集まつてくる。雨ふりの日でも百人を下ることはない。新聞紙を荒むしろの上にしいてお菓子を一人前々々々ならべる。子供には手ぐらゐは洗つてやる。「いただきませう。」をする。「おごちそうさま。」もする。どんなささやかなものでもかうして皆で笑ひながら食べると、ほんとにおいしい。

帝都の警備に若松六十五聯隊から派遣されて來たといふ中尉某氏、一日「子供の家」を訪れて一罐の菓子を惠まれた。東京全滅ときいて、子供のお菓子がなくちや、みぢめだと思つて若松からわざ〳〵持つて來られたのだといふ。私のいい兵隊さん！手を握りませう。子供もこんなに躍つてゐます。

　おもちやを兩腕に一パイかかへて誰にもいぢらせまいとする子が目につく。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

早い子は同人一同が朝のおつとめをして居る中から――六時半頃――やつて來る。夕方も五時半までといふ略規にはなつてゐるが、暗くなつてもお迎のない子もずゐぶんある。日曜だつて、むろん、休みはしない。保姆さんの任に當られてゐる同人方は、ほんとに、御苦勞さまです。目下の托鉢者、赤木、奠、杉谷、齋藤、佐々木の諸姉。私が準備掛。

「私は小さい子供をお世話した經驗がございませんの。」

「かまひますまい。」

「出來ますかしら。」

「あなたの小さい妹さんや弟さんを御覽になるおつもりで見てくだされぱいいんでないんでせうか？」

「何だか不安なやうな氣がします。保育法の本ひとつ讀んでゐないのですから。」

「子供の本性についての洞察力は、讀書からだけでは養はれにくいでせう。やはり、道を行ずるといふいき方のほうが本筋だと思ひます。マア、「エミール」でも、夜分になり、繙かれては。それから、健體兒童の發育標準などは、不完全なものですが、私の編ませてもらつた「兒童を愛するの道」に出てゐますから、御參考ください。」

「市から鋏を七十丁めぐまれました。子供に切り紙の手工をさせたいのですが、色紙がないのです。」

「さうですか。」

「組を三つくらゐこしらへて毛絲の徽章を子供につけてやりたいと思ひますの。あんまり亂雜ですから。それから机をいくつかね……」

「ほんとです。」

ただ、世に淨財乏し！吾等不德なればか？

入我我入。子供の心と水を流し合ふのですね。しかし保育法もゆるがせには出來ません。法の如何でいのりが屈折しますもの。

子供は人間教師。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

本誌發賣部移轉

京都市衣ノ棚丸太町上ル杉本方

宣光社

振替大阪五九八三九番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

震災後復興出版

西田天香著

懺悔の生活

新定價金貳圓參拾錢
郵送料　金拾貳錢

帝都の大半を壞滅せしめたる大震劫火の慘禍は、我等に降されたる一大天譴なり。我等は畏れかしこみ、深く省みて、懺悔の誠をあらはさざるべからず。如何に處すべきかを具體的に示せるものは『懺悔の生活』の一書にして、此の生活に理論的說明を與へんと試みたるものは『光明祈願にそへて』の一書なり。今や、災禍に絡みて惹起されたる諸々の事件は、新舊の思潮を更に混亂せしめ、政海の波瀾また重疊し來らんとす。此の時に當りて正確なる羅針盤たるものは此二書なるべし。玆に重刊して復興版を作り敢て江湖に推薦する所以なり。

中桐確太郎著

光明祈願にそへて

新定價金壹圓九十錢
郵送料　金拾貳錢

東京市神田區神保町　春秋社　振替東京二四八六一